

令和4年度事業実績

(1)多様な県民が利用できるサービスの提供

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
宅配貸出サービス	【時期】通年	障がい者や高齢者、子育て中の方等、多様な利用者への読書活動支援として宅配貸出サービスを行った。 貸出冊数 障がい者向け郵送貸出 343冊 高齢者向けセット貸出 0冊 乳幼児向けセット貸出 315冊
視覚障がい者等用資料提供サービス	【対象】 視覚障がい者 活字資料の利用が困難な方	8月にサピエ図書館及び国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスに加入した。拡大読書器の更新、デイジー再生機の購入を行った
電子書籍サービス	【時期】通年 【対象】県民	学術書・専門書を中心とした電子書籍をインターネット上で提供した。
電子申請の活用	【対象】県民	資料利用券申込みや研修室利用申込み等の利用手続きの電子化を行った。
読書週間行事	【時期】 春と秋の2回	全国的に実施される読書週間に呼応して多様な行事を開催した。
	【春 こどもの読書週間】 (4月23日～5月12日)	そよかぜげんき広場を4月23日～5月12日に開催し多数のイベントを行った。 イベント参加者延べ410名
	【秋 読書週間】 (10月27日～11月9日)	「読書週間」関連のイベントを行った。 イベント参加者延べ700名

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
映画上映会	【時期】 祝日・夏休み・読書週間中の日曜日 【対象】 幼児及び小学生	「アニメ映画上映会」 幼児及び小学生を対象に、ストーリー及び映像などが良質のアニメ映画を上映する。 通常の上映会 25回実施 視聴者数 合計519名 特別上映会 4回実施 視聴者数 合計 55名
	【時期】 秋の読書週間及び休日等 【対象】 一般県民	「夏のアドベンチャー映画上映会」 3日間実施 参加者計26名 「秋のサスペンス映画上映会」 3日間実施 参加者計65名
	【時期】 平日の開館日 月1回程度	「ライブラリーシアター」 大人向けの映画を、平日の開館日に上映する。 4/16 39名 5/11 46名 6/16 71名 7/28 51名 8/19 31名 9/14 53名 10/13 57名 11/18 41名 12/21 53名 1/12 52名 2/17 75名 3/17 40名 年間12回 合計608名
JAXAコズミックカレッジ	【時期】 読書期間中及びその前後 【対象】 県内の小学3年生から中学生	宇宙をテーマにした科学実験と工作 ① 8/ 7「光る星砂で星座盤工作」 46名 ② 11/23「エア・ウイングを作ろう！」43名 豊後大野市立図書館にて実施 ③ 1/22「光る星砂で星座盤工作」 18名

(2)子どもの読書活動の推進

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
子ども読書活動支援	<p>【時期】通年</p> <p>【対象】子どもの読書活動に関心のある人、団体 読み聞かせボランティア団体 PTA 教職員 保育士 など</p>	<p>「子ども読書支援センター」の運営</p> <p>○子ども読書推進員(講師)の派遣・紹介 派遣・紹介数 8団体 相談 5団体 参加者 183名</p> <p>○子ども読書関連情報の収集・整理・情報発信</p> <p>○家庭・学校での読書活動に資する情報の提供 新聞・広報誌等への情報提供 …絵本・児童書等資料、子ども室関連行事の紹介</p> <p>「合同新聞」(毎月) 「クルール」(隔月) 「ワイヤーママ」(9回) 「こどもしつだより」(隔月) 「ティーンズだより」(年4回) 他、ホームページ・フェイスブック等で随時</p>
おはなし会	<p>【時期】土曜日(第3土曜を除く) 11:00~12:00</p> <p>【対象】幼児、小学生</p> <p>【時期】第3土曜日 14:00~15:00</p> <p>【対象】小学生</p> <p>【時期】第3または第4水曜日 (4・3月を除く) 1歳児 10:30~11:00 0歳児 11:15~11:45</p> <p>【対象】0~1歳児と保護者</p> <p>【時期】第1水曜日(祝日除く) 11:00~11:20</p> <p>【対象】1~4歳児</p> <p>【時期】年3回 ②14:00~14:40 ①11:00~11:40 ②14:00~14:40</p> <p>【対象】①幼児 ②幼児、小学生</p>	<p>子どもに本や図書館に親しみを持たせることを目的に、ストーリーテリング、読み聞かせ、紙芝居等によるおはなし会を実施。</p> <p>【参加者】全 70回 延べ 950名</p> <p>◆おはなし会 ※中止の日あり 実施者:協力団体(第1・2・4)、当館職員(第5) 内容…読み聞かせやストーリーテリング、紙芝居等 (※以下、内容記載のない項目は同様) 計28回 参加者426名</p> <p>◆小学生のためのおはなし会 ※中止の日あり 実施者:協力団体 内容…ストーリーテリング 計11回 参加者150名</p> <p>◆あかちゃんのためのおはなし会 実施者:講師 内容…わらべうたや手遊び、赤ちゃん絵本の読み聞かせ等 計10回 参加者141名</p> <p>◆おはなし会2・3・4 実施者:ボランティア(個人)、当館職員 内容…読み聞かせやわらべうた 計9回 参加者53名</p> <p>◆季節のおはなし会 実施者:ボランティア そよかぜ 4/24(30名) クリスマス 12/11(25名) うめもも 2/26(5名)</p>

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
	<p>【日時】8/9 16:00～16:45 【対象】幼児、小学生</p> <p>【時期】こどもの読書週間 4/23～5/12の平日 15:30～15:40 【対象】幼児、小学生</p> <p>【時期】読書週間 10/29 11:00～12:00 14:00～15:00 【対象】幼児、小学生</p> <p>【時期】年4回 10:30～11:30 【対象】成人</p>	<p>◆夏のゆうぐれこわ～いおはなし会 実施者:当館職員 内容…こわい話を中心としたおはなし会 参加者12名</p> <p>◆ちっちゃなおはなし会 ※中止の日あり 実施者:当館職員 内容…読み聞かせ 計3回 参加者17名</p> <p>◆秋の読書週間のおはなし会 実施者:読み聞かせひろばボランティア、 当館職員 参加者36名</p> <p>◆大人のためのおはなし会 共催:おじいさんのもり松本記念児童図書館 実施者:おじいさんのもり職員、協力者、 当館職員 内容…ストーリーテリング 6/14(8名) 9/13(15名) 12/6(13名) 3/14(19名)</p>
読み聞かせひろば	<p>【時期】毎週日曜日 11:00～12:00 【対象】乳幼児、幼児</p>	<p>子ども室マットコーナー ※中止の日あり 実施者:ボランティア 内容…読み聞かせ 全22回 参加者115名</p>
めざせ！図書館王	<p>【時期】夏休み期間 7/21 ～ 8/31 【対象】幼児～中学生</p>	<p>様々な本や図書館に親んでもらうため、テーマに沿った本を探してもらうイベントを実施 参加者: 652名</p>
おはなしすごろく	<p>【日時】読書週間 11/3 【対象】幼児～中学生</p>	<p>絵本をマスの題材とした大きな人間すごろくを実施 参加者: 49名</p>

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
施設連携による 小中学校支援プログラム	【時期】 通年 【対象】 県内小学校及び中学校	【内容】 図書館見学、調べ学習等 【利用実績】 ・5/27 佐伯小学校 56名参加 ・6/24 附属中学校 83名参加 ・6/28 附属中学校 84名参加 ・7/15 附属小学校 108名参加 ・8/30 明治小学校 19名参加 ・9/30 別府支援学校 13名参加 ・10/21 附属小学校 40名参加 ・11/ 2 青山小学校 15名参加 ・11/24 川添小学校 28名参加 9件 計446名
不登校対策「ポランの広場」図書館活動	【時期】 6月～11月 年間4回程度 【対象】 県教育センター「ポランの広場」の児童・生徒	通級生自体がない期間が長く 今年度は開催できなかった。
不登校対策(フリースクール等)図書館活動	【時期】 随時 【対象】 ・市町村の教育支援センター ・市町村図書館 ・フリースクール	市町村の教育支援センターと図書館が連携して行う不登校支援事業を、県教育センター及び県立図書館が支援する。 フリースクールに対しても同様の支援を県立図書館が実施する。
矯正施設等の子どもへの読書活動支援	【時期】 通年 【対象】 ・大分少年鑑別所 ・大分少年院 ・中津少年学院 等 ※子どもの読書活動の推進に関する法律の趣旨	矯正施設等の機関と連携、協議し、施設にいる子どもの読書による自己への気付き、成長を目的に、読書環境や書籍等の充実・整備、読書活動推進のため可能な分野から支援を行った。 【支援内容例】 協力貸出、団体貸出、除籍図書の譲渡等
県立病院入院児童生徒読書支援	【対象】 県立病院小児科病棟 県立病院新生児集中治療管理室(家族控え室)	県立図書館推薦の優良図書を県立病院に定期的に貸出し、入院中の児童・生徒の読書活動を支援した。

(3)資料収集・保存・提供の推進

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
ふるさと大分の文学者展示コーナーの運営		<p>大分県出身又はゆかりのある文学者の紹介・資料の展示、及び大分に関する展示を行った。</p> <p>企画展示 「主人公 油屋熊八 ～描かれた人生～」 「おおいたの鉄道」 「記録をつなぐ I おおいたの空襲」 「十二国記の世界 祝30周年」 「来島武彦記念館合同展示 日本のアンデルセン来島武彦」 「大分県立図書館を訪れた著名人」 「磯崎新」</p>
県立図書館資料整備事業	<p>【時期】通年</p> <p>【対象】 ・図書館利用者</p>	<p>県民の文化・教養の向上及び課題解決支援等のために、一般資料、郷土資料、調査相談資料、子ども室資料、逐次刊行物等の資料収集を行い、閲覧・貸出に供する。</p>
相互貸借	<p>【時期】通年</p> <p>【対象】 ・図書館利用者</p>	<p>県内・県外の図書館が所蔵している資料を、図書館利用者の申し出により、県立図書館が取り寄せ、提供することで課題解決の支援を行った。</p> <p>取り寄せ冊数 613冊</p>
郷土資料のデジタル化	<p>【時期】通年</p> <p>【対象】図書館利用者</p>	<p>県立図書館が所蔵する郷土資料のデジタル化を行った。また、先哲史料館、公文書館ともにデジタルアーカイブ「おおいたデジタル資料室」を開設し、インターネットを通じて利用者へ資料提供を行った</p> <p>「おおいたデジタル資料室」 開設 令和5年2月8日 登録データ 299件 (内 インターネット公開:71件)</p>

(4)市町村立図書館、学校図書館、団体への支援

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
大分県公共図書館等連絡協議会	【対象】 市町村立図書館(室)	県内公立図書館及び公民館図書室相互の連絡を密にして、図書館に関する研修、情報交換等を行った。 ・総会 5/27(金) ・理事会 4/20(水)、12月(書面会議) 2月(書面会議) ・実務担当者会議 11/28(月) ・図書館利用促進企画検討委員会 7/4(月) 会員館において、読書週間を中心に県内図書館のバリアフリーサービス等を紹介する共通展示を行った。 ・協議会ホームページを更新した。
公立図書館等職員研修会	【時期】 年6回 【対象】 市町村立図書館、市町村公民館職員 【内容】 ① 5/16～ 初任者研修 ② 7/ 4 県内視察・テーマ別研修 ③ 9/12.26 図書館基礎講座 ④ 11/ 5 文化講演会 ⑤ 1/16～ テーマ別研修 ⑥ 2/20 課題解決研修	県内の公立図書館・公民館図書室におけるサービスの向上を図るため、研修会を行った。うち一部は一般県民及び県立学校職員も対象とした。 ① 講師 県立図書館職員 参加者 37名 ② 講師 豊後大野市図書館職員 講師 入矢 玲子 氏 参加者 69名 ③ 講師 山口 真也 氏 講師 永利 和則 氏 講師 島津 芳枝 氏 講師 小形 亮 氏 講師 下川 和彦 氏 講師 末次健太郎 氏 参加者46名 ④ 講師 金 成妍 氏 参加者 80名 (うち図書館職員19名) ⑤ 講師 高見 京子 氏 参加者 124名 ⑥ 講師 菅 章 氏 参加者28名
公立図書館等館長研修 司書等派遣・巡回相談業務	【時期】 年1回 【対象】 市町村立図書館長、市町村公民館長等 ・市町村立図書館 ・市町村公民館	公立図書館長及び公立図書館等において管理的立場にある職員等に対して、業務遂行に役立つ研修を行った。 5/27 参加者 21名(16館) 司書等の派遣(来館型実習を含む)及び巡回相談を行い、図書館や図書室の利用促進及び相互協力体制を確立を図った。 (各市町村立図書館等からの申請に基づき実施) 【派遣研修】 司書等派遣業務 4回実施 42名 受講(臼杵市・日出町・国東市・佐伯市) 【巡回訪問】 ・18市町村へ訪問実施

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
協力貸出 大分県図書館情報ネットワーク(OLIB)を活用	【時期】 通年 【対象】 ・市町村立図書館 ・公立及び私立の小・中学校、 高等学校、短大・大学 ・その他(矯正施設等)	県内どこからでも県立図書館の資料を利用できるよう、市町村立図書館・図書室を通じ、宅配による資料の貸出を行い、市町村の図書館活動を支援した。 また、県内各学校等が必要とする資料の援助を行い各学校等との連携を図った。 ・冊数…利用者の希望する冊数 ・期間…1ヵ月以内 ○OLIB登録団体…456団体 ・市町村立図書館・公民館図書室:36館(室) ・県立学校:57校・国立大学法人附属学校:2校 ・小学校:248校・大学:1校 ・中学校:115校・その他:2団体 ○協力貸出利用団体…112団体 ・市町村立図書館・公民館図書室:28館(室) ・県立学校:33校・大学:1校 ・小学校:37校・中学校:13校 ○利用冊数…23,838冊 うち学校(小中学校、県立学校、大学) …10,239冊
大分県図書館横断検索システム(総合目録)	・市町村立図書館 ・玖珠町わらべの館	県内公共図書館の資料を検索できるシステムを構築することにより、相互貸借を推進し、資料の有効活用を図った。 ・参加館18館(県立図書館を含む)
電子書籍サービス	【時期】 通年 【対象】 県民	学術書・専門書を中心とした電子書籍をインターネット上で提供した。 ・コンテンツ追加 130タイトル
電子書籍サービス	【時期】 通年 【対象】 ・県立高校及び特別支援学校 職員及び児童生徒 ・利用希望のあった私立高校 職員及び生徒	専門書を中心とした電子書籍を、高校・特別支援学校での教科学習、進路学習等で活用できるように支援した。また、電子書籍サービスの利用拡大に向けた広報及びアンケート結果の分析を実施した。
第9回大分県図書館大会	【時期】 令和4年8月1日(月) 12:50～16:10 【対象】 ・市町村立図書館(室) ・学校図書館関係者 ・県立図書館	県内の公共図書館と学校図書館相互の連携・諸活動の推進を図るとともに、地域・学校強化と職員のスキルアップにより、図書館サービスの向上と読書に貢献する図書館づくりに取り組むことを目的とした大会を実施した。 【テーマ】 「子どもの世界を広げる図書館活用法を考える」 【記念講演】 小田 光宏 氏(青山学院大学 教授) 【参加者】 当日参加者81名 動画視聴者99名 合計180名

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
団体貸出文庫	<p>【時期】通年</p> <p>【対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村立図書館 ・市町村公民館 ・読書団体 ・学校 ・福祉団体 ・高齢者施設等 	<p>資料の貸出及び読書活動に関する助言等を行うことにより、県民の主体的な読書活動を支援し、地域読書活動の活性化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冊数…1,000冊まで ・期間…3ヵ月以内 <p>○利用団体…61団体(実利用数) ○利用冊数…36,389冊</p>
職場体験学習、インターンシップ、図書館見学の受入	<p>職場体験学習、インターンシップ</p> <p>【時期】通年</p> <p>【対象】学校等</p> <p>図書館見学</p> <p>【対象】様々な団体 (子どもから大人まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や放課後等デイサービス等の社会見学、保護者や教員等の研修、建築関係の学生、建築士等 	<p>図書館機能等の紹介と普及を図るとともに、学校が行う職場体験学習を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州大谷短期大学 8/16～8/27 1名 ・県立芸術文化短期大学 8/22～8/26 1名 ・大分大学 9/13～9/16 1名 ・大分大学 9/28～9/29 1名 ・愛媛大学 9/28～9/29 1名 ・情報科学高等学校 10/26～10/28 3名 ・滝尾中学校 9/6～9/7 2名 ・附属特別支援学校中学部 10/5～10/7 2名 ・さくらの杜高等支援学校 11/22～12/2 2名 ・附属特別支援学校高等部 2/9 2/16 1名 <p style="text-align: right;">延べ10校 15名受入</p> <p style="text-align: center;">図書館見学……9団体 136名</p>
スクールサービスデー	<p>【時期】通年(月曜休館日)</p> <p>【対象】県内小学校(3年生～) 中学校・高等学校の児童・生徒</p>	<p>月曜休館日(貸切状態)の県立図書館で、多様な図書資料等を活用して、学校・学年・学級単位で行う調べ学習を支援するスクールサービスデーを実施した。</p> <p>【内容】図書館ガイダンス、調べ学習等</p> <p>【利用実績】</p> <p>参加生徒数276名、引率16名 合計292名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/6平松学園 向陽中学校3年(合計39名) ・1/16大分県立大分西高校1年(合計253名)

(5) 県民の調査研究・課題解決の支援

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
行政・民間団体との連携事業 県民の課題解決を支援 (相談会・公開講座等)	◆起業支援 【経営無料相談会】 (4~3月)	大分県中小企業診断士協会と連携して個別相談会を実施した。 12回開催【利用者】12名
	◆医療・健康関係 【1日まちの保健室】 (5/28(土))	大分県看護協会、大分県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援専門部会と連携して実施した。 ・健康無料相談会 【利用者】77名 ※新型コロナウイルスの影響により10月は中止
	◆法律関係 【公証人による無料相談会】 (4~3月)	大分公証人合同役場と連携して個別相談会を実施した。 12回開催【利用者】70名
行政・民間団体との連携事業 県民の課題解決を支援 (相談会・公開講座等)	◆その他 【デージー図書体験会】 (10/30(日))	大分県点字図書館と連携して、デージー図書の読書体験会を実施した。
	【パネル展示等】 【団体発行の広報紙等への情報提供】	県の各機関等と連携し、館内に展示した。 ・裁判員制度に関するパネル展 (大分地方裁判所) ・認知症に関するパネル展 (県高齢者福祉課) ・差別解消・人権に関するポスター展(2回) (県人権尊重・部落差別解消推進課) ・臓器移植・提供に関する展示 ((公財)大分県臓器移植医療協会) ・「創造おおいた」毎月 大分県産業創造機構発行、県立図書館のビジネス書新刊を紹介した。 ・「看護おおいた」1回 大分県看護協会発行、おすすめ図書を紹介した

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
県民の課題解決を支援 (公開講座等)	<p>・【古典の日推進講座】 (6月～11月で3回) ① 6/18 土 13:30～15:00 講師:浅野 則子 氏 ② 10/29 土 13:30～15:00 講師:ZENKAI太鼓「和」 ③ 11/20 日 13:30～15:00 講師:村上 博秋 氏</p> <p>・【夏の自由研究お助け講座 ～調べ学習は県図書で～】 7/25 月 10:00～16:00 講師:小野 雄平 氏</p> <p>・【絵本講座 ～絵本をつくる楽しさと思い～】 8/27 土 13:30～15:00 講師:きうち かつ 氏</p>	<p>・県民を対象に全3回実施。古典についての関心と理解を深め、11/1が「古典の日」であることの周知を図った。</p> <p>①「和歌で表現される世界～色をとおして見る～」 受講者:68名 ②「知ってる?『和太鼓』を体験してみよう!」 受講者:69名 ③「バーチャルミュージアムで歴博(レキハク)探訪!」 受講者:20名</p> <p>・子どもは調べるテーマの設定と、調べる方法や内容について学び、大人は調べ学習への支援方法について学んだ。 受講生:子ども10名、大人10名</p> <p>・読書活動支援に興味のある方を対象に、絵本作家が絵本をつくった経緯や思いを知ること、絵本に対する理解を深める講座を実施した。 受講生:60名</p>
県民の課題解決を支援 (公開講座等)	<p>・【ストーリーテリング入門講座】 ① 9/7 水 ② 9/14 水 ③ 10/12 水 ④ 10/19 水 10:00～12:00 講師:岩堀 峰子 氏</p> <p>・【ボールペン字講座～文字を 正しく書くルールを知る～】 2/26 日 14:00～16:00 講師:松崎 典孝 氏</p> <p>・【スマホの使い方講座 ～基本編～】 6/2 木 13:30～15:00 講師:ドコモショップ 大分中島店 スタッフ</p> <p>・【スマホの使い方講座 ～LINEアプリ編～】 ① 7/11 月 ② 8/10 水 13:30～15:00 講師:ドコモショップ 大分中島店 スタッフ</p> <p>・【けんとしょ電子書籍サービス 体験講座】 ① 10/18 火 ② 10/30 日 ③ 11/9 水 13:30～15:30 講師:県立図書館職員</p>	<p>・県民を対象に、連続4回の講座を実施した。前半ではストーリーテリングの理論や技法・選書等を学び、後半では身につけた物語を全員1話ずつ実演。 受講生13名(うち修了生13名)</p> <p>・社会に出て自分の文字が公になることに不安を覚える大学生や新社会人を対象に、文字の正しい書き方を学ぶ講座を実施した。 受講者:12名</p> <p>・県民を対象に、日常生活で身近にあるスマートフォンの基本操作やアプリの使い方を学んだ。 受講者:20名</p> <p>・県民を対象に全2回実施。スマホで、コミュニケーション手段として活用できるLINEアプリの使い方を学んだ。 受講者:①18名、②15名</p> <p>・県民を対象に、当館の電子書籍サービスを体験してもらい、使い方や手続き等を案内した。 受講者:①11名、②15名、③15名</p>

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
県民の課題解決を支援 (くらしに役立つ連携講座)	<ビジネス支援> 【時期】年間 【対象】県民 (個人事業主、中小企業経営者、起業予定の方等)	行政・民間団体・放送大学等と連携し、各種セミナーや相談会、講演会、講座、企画展示等を行うことで、県民の課題解決支援と多様な学習機会の提供を行った。 ◆大分県よろず支援拠点土曜日出張セミナー・個別相談会 ・連携先: 大分県よろず支援拠点 セミナー: 計21回(参加者77名) 個別相談会: 計19回(参加者31名)
	<医療・健康関係> 【時期】年間 【対象】一般県民	◆緩和ケア講演会 ・連携先: 大分大学医学部附属病院がん相談支援センター・緩和ケアセンター 9/24(12名)
	<法律関係> 【時期】年間 【対象】一般県民	◆法律セミナー ・連携先: 法テラス大分 ①9/17(13名) ②2/25(9名)
	<家庭教育支援> 【時期】年間 【対象】一般県民	◆大分県子育て講演会 ・連携先: 県福祉保健部 障害福祉課、大分大学医学部小児科学講座、(社福)別府発達医療センター 2/26(113名)
県民の課題解決を支援 (くらしに役立つ連携講座)	<趣味・教養関係> 【時期】年間 【対象】一般県民	◆放送大学公開講演会(全3回) ・連携先: 放送大学大分学習センター ①6/12(25名) ②7/2(29名) ③9/3(36名)

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
産業科学技術コーナーの充実	【時期】通年 【対象】中小企業関係	県産業科学技術センターと連携し、中小企業関係者にとって役立つ推薦図書や研究成果等を展示するコーナーの充実を図った。
課題解決コーナーの運営	【時期】通年 【対象】県民 「子育て情報」 「健康づくり情報」 「仕事と暮らしの情報」	個人や地域の課題解決を支援するため、課題解決コーナーの充実を図った。 ・設置場所…一般資料室 ・主な資料…関係新刊図書・行政資料、雑誌、パンフレット等
データベースの提供	【時期】通年 【対象】県民	商用データベース(各種新聞記事検索、官報、判例検索等)、国立国会図書館デジタル化資料、当館作成の新聞画像データベース等を提供することで、県民の調査研究・課題解決支援を行った。
調査相談	【時期】通年 【対象】 県民 県内図書館等 図書館以外の行政機関	専門職員による調査相談を口頭・電話・FAX・郵便・メール等で受付し、資料や情報の提供を行うことで、調査研究・課題解決を支援した(ビジネス支援、行政支援、県内図書館等からの協力レファレンス等)。

(6)社会教育の推進と生涯学習情報の提供

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
社会教育推進力向上支援事業	<p>【時期】年間</p> <p>【対象】 社会教育関係行政職員、 社会教育関係団体 等</p>	<p>①社会教育関係者を対象とした研修 市町村職員等の資質向上や指導者の育成をめざし研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任社会教育行政職員・新任社会教育主事研修会 6/3(30名) ・社会教育主事専門研修会 7/8(18名) ・社会教育行政職員専門研修会(2回) 第1回:9/2(25名) 第2回:12/16(17名) ・社会教育関係職員等合同研修会 2/24(35名) ・県・市町村社会教育委員研修会 4/26(78名、うちオンライン27名) ・公民館関係職員研修会(3回) 関係職員研修:5/25(85名 うちオンライン51名) テーマ別研修①:7/14(31名) テーマ別研修②:9/16(26名) <p>②大分県社会教育応援隊(社会教育主事派遣) 市町村の社会教育関連事業に対し、依頼に応じて積極的に関わり支援するとともに、市町村の現状を把握し、地域における社会教育活動の充実及び活性化を図った。(6市町村12回)</p> <p>③市町村社会教育巡回訪問 市町村の社会教育施設等を訪問し、各市町村の生涯学習・社会教育の現状やニーズを把握し研修や調査研究に活用した。 (9市町村67回)</p>
学校・家庭・地域による「学びの未来」創造事業	<p>【時期】年間</p> <p>【対象】地域学校協働活動推進員、「協育」ネットワーク関係者、社会教育関係行政職員等</p> <p>【対象】放課後子ども教室関係者、放課後児童クラブ関係者等</p> <p>【対象】地域学校協働活動推進員、「協育」ネットワーク関係者、社会教育関係行政職員等</p>	<p>①「地域学校協働活動推進員」関係者研修会 コミュニティ・スクールと連携した地域学校協働活動のあり方について研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回(3地区) 行政説明、事例発表、協議・意見交換 ・7/26 宇佐市(25名) ・7/27 県立図書館(27名) ・8/2 日田市(24名) ○第2回(2地区) 事例参観、協議・意見交換 ・12/9 杵築市立山香中学校(11名) ・1/31 はさま未来館(由布市立石城小学校(24名)) <p>②放課後児童関係者研修会 放課後子ども教室や放課後児童クラブ等の連携による子どもの安心・安全な放課後の実現に向け研修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/29 県立図書館(92名) <p>③企業・高校等を活用した小学生チャレンジ教室開発事業 企業や高校生等の外部人材を活用し、地域の特色をいかした教育プログラムを開発し、小学生を対象とした体験活動講座を市町村関係者に公開する研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県によるプログラム提示 ・6/26 県立図書館(20名) ・12/4 県立図書館(4名) ・2/12 県立図書館(9名) ○市町村とのプログラム協同実施 ・8/17 九重町(6名) ・11/26 杵築市(10名)

事業名	実施時期・対象等	事業内容等
外国人とのコミュニケーション拡大事業	<p>【時期】年間</p> <p>【対象】地域住民、社会教育関係団体、企業、社会教育関係職員、在住外国人等</p>	<p>社会教育施設を核とした、「やさしい日本語」を活用した多文化・多世代交流による持続可能な地域コミュニティの形成及び公民館の機能強化を図る。</p> <p>①「やさしい日本語」の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会の開催 6/11 日田市(69名) 10/15 佐伯市(81名) ・クリアファイル及びリーフレットの作成 ・配信動画の作成・公開(4本) <p>②「やさしい日本語」学習機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を対象とした学習会の開催 8/21 県立図書館(18名、うち外国人2名、サポーター3名) 9/4 宇佐市(15名、うち外国人3名、サポーター3名) ・在留外国人との実践交流会の開催 9/25 県立図書館(18名、うち外国人8名、サポーター3名) 11/13 宇佐市(15名、うち外国人5名、サポーター3名) ・県立大分南高等学校福祉科との連携 7/13 講演会(生徒75名) 9/8 交流会(生徒69名、留学生10名、サポーター2名) ・「やさしい日本語」普及と外国人との交流イベントの企画会議 中津市 全3回(日本人のべ44名、外国人のべ13名) 別府市 全3回(日本人のべ30名、外国人のべ13名) ・「やさしい日本語」サポーターの育成 中津市18名、別府市16名 <p>③学習成果の活用と実践活動例の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やさしい日本語」普及と外国人との交流イベント <中津市> 11/26 サイクリング(日本人9名、外国人12名) 1/15 かるた(日本人19名、外国人12名) 3/11 バドミントン(日本人27名、外国人13名) <別府市> 11/27 クイズ、国紹介(日本人71名、外国人22名)
大分県生涯学習情報提供システム整備事業	<p>【時期】年間</p>	<p>県民の学習ニーズに応えるとともに、社会教育行政職員の支援のため、大分県生涯学習情報提供サイト「まなびの広場おおいた」の整備充実を図った。</p>
生涯学習・社会教育に関する調査・研究	<p>【時期】年間</p>	<p>県内における生涯学習・社会教育に関する課題や状況を把握し、解決策や支援方法の改善充実等を図るために、社会教育施設におけるICT整備状況についての調査・研究を行った。</p>

令和4年度基本方針及び重点目標

1 基本方針

大分県立図書館は、県民の教養・文化の向上に寄与するため、社会教育法、図書館法並びに本県教育の基本施策を踏まえ、県民の生涯にわたる多様で自発的、継続的な学習要求にこたえるキー・ステーションとして、大分県公文書館、大分県立先哲史料館と一体となって、「だれでも、いつでも、どこからでも」利用できる社会教育施設としての機能を果たさなければならない。

そのため、「専門性」と「多様性・広域性」をコンセプトに、県内公共図書館・学校図書館、公民館のみならず、他の行政機関や民間団体とも連携を進めつつ、仕事やくらし、また地域社会の課題解決等に役立つ図書館サービスの構築・提供を目指す。

2 重点目標

(1) 多様な県民が利用できるサービスの提供

- ・DXの推進による非来館型サービスの充実
- ・障がい等により図書館を利用できない人に対する図書館サービスの充実
- ・ホームページ・SNS等による情報発信の強化
- ・「やさしい日本語」等を活用した館内サービスの充実

(2) 子どもの読書活動の推進

- ・多言語絵本等の資料提供による子どもの読書活動支援
- ・子育て関連イベント等による家庭の読書活動支援
- ・小中学生の図書館利用の促進（小中学校支援プログラムの充実）
不登校などの様々な環境にある児童・生徒への支援

(3) 資料収集・保存・提供の推進

- ・専門的・学術的資料、郷土資料の収集・保存・提供
- ・郷土資料の利活用・デジタル化の推進
- ・収蔵スペース確保のための保存資料・書架配分の見直し

(4) 市町村立図書館、学校図書館、団体への支援

- ・職員研修や図書館相互貸借等による市町村立図書館への支援の充実
- ・災害対応などの様々なリスクを想定した県内公共図書館の連携・協力体制の構築
- ・協力貸出等による学校図書館への支援と連携
- ・団体貸出を活用した様々な団体への支援

(5) 県民の調査研究・課題解決の支援

- ・司書の資質向上によるレファレンスサービスの充実
- ・行政や民間団体等との効果的な連携(企画展示、相談会、セミナー)
- ・幅広い世代を対象にした公開講座・連携講座の充実

(6) 社会教育の推進と生涯学習情報の提供

- ・社会教育関係者研修の推進と公民館等での「やさしい日本語」講座の普及
- ・市町村・団体等への指導・助言及び支援（社会教育主事派遣の活用促進）
- ・「まなびの広場おおいた」による様々な生涯学習情報の提供

○主な取組(特徴的、新規等)

- 安心、安全して利用できる環境づくり
- ①新型コロナウイルス感染症対策の随時見直し
 - ・開館時間短縮を中止 9:00～19:00 → 9:00～20:00 (R4.10～)
 - ・感染症対策の緩和（閲覧室等の席を再配置、学習室の利用制限の緩和等）
- ②老朽施設の改修
 - ・雨漏り対策のため屋上、外壁を改修
 - ・エレベーターの改修
- 図書館システムの更新
 - ・インターネット予約（遠隔地受取貸出）の対象拡大
 - ・郷土資料のデジタルアーカイブ「おおいたデジタル資料室」公開
 - ・ホームページのリニューアル、アクセシビリティの向上
 - ・市町村立図書館間の本の貸出依頼をオンライン化、
- 図書館を利用できない、しない人への対応
 - ・大分県立図書館協議会に諮問した「障がい者等の読書環境の整備について」の答申を受理

○重点目標別事業

- 開館日数
 - ・308日 (R4) 290日 (R1) ※図書館システム更新のため資料整備期間を通常より1週間延長
 - ・平日開館時間の1時間短縮を中止 (R4.10.1から)
- 入館者数
 - ・280,405人 (R4) 451,439人 (R1)
- 個人貸出
 - ・465,474人 (R4) 534,359人 (R1)

- コロナ禍によるイベント、事業の中止・縮小
 - ・おはなし会（子ども対象）：66回・895名 (R4) 72回・1,254名 (R1)
 - ・読み聞かせひろば：22回・115名 (R4) 41回・306名 (R1)
 - ・子ども読書推進員（講師）の派遣・紹介：8団体・183名 (R4) 16団体・183名 (R1)
- 多言語絵本の収集
 - ・英語 (34冊) ベトナム語 (26冊) ウクライナ語 (15冊) 中国語 (15冊) 韓国語 (9冊) スペイン語 (1冊)
 - ※英語併記の絵本はもう一つの言語でカウントした。
- 小中学生の図書館利用の促進（小中学校支援プログラムの充実と対象の拡大）
 - ・合計9回実施 446名参加
- 不登校などの様々な環境にある児童・生徒への支援
 - ・見学および読み聞かせ等の図書館活動 合計4回実施 53名参加
 - ・団体書庫利用促進に係る広報

- 郷土利用促進のための組織改正
 - ・サービス課に郷土資料利用担当を新設
- 郷土資料のデジタル化の推進
 - ・「おおいたデジタル資料室」公開：収蔵情報299件 画像あり299件（うちインターネット公開71件）
- 専門書の割合（一般資料）を増加
 - ・50.1%(R4) 49.7%(R3)
- 収蔵スペース確保のための除籍強化
 - ・11,753冊 (R4) 10,102冊 (R3)
 - ・雑誌保存年限の短縮変更 (R3～4)
- 企画展示の充実
 - ・123件 (R4) 122件 (R3)
- 他館との相互貸借による未所蔵資料の提供
 - ・613冊 (R4) 648冊 (R3)

- 県内公共図書館の連携・協力体制の強化
 - ・職員への研修機会の提供
 - ・災害対応に関するアンケートを実施
 - ・相互貸借のシステム化
- 学校図書館への支援及び連携
 - ・小中学校支援プログラムの充実
 - ・県立学校に対する電子書籍サービス広報および利用環境整備
 - ・図書館大会及び動画配信による研修機会の提供
- 団体貸出・協力貸出の利用拡大
 - ・土日の団体貸出書庫オープンを20回実施（試行）
 - ・ビジュアルブックコーナー設置
 - ・フリースクールや放課後デイサービスなど新規団体への情報提供

- レファレンスサービスの充実
 - ・10月から来館者への対応を午後8時までに戻す
- 行政や民間団体等との連携
 - ・経営無料相談会、公証人による無料相談会 年12回実施
 - ・1日まちの保健室を1回実施（10月は中止）
 - ・パネル展示等を4機関、計5回実施

- 集い、つながる研修の実施
 - ・感染対策を施した集合研修の実施、演習やワークショップなど、より効果的な課題解決を図るための内容の工夫
- 公民館の活性化支援及び地域人材の育成を図るための事業の実施
 - ・地域学校協働活動の推進、「やさしい日本語」の普及
- 社会教育主事派遣及び市町村訪問による、市町村及び社会教育団体への支援
- 「まなびの広場おおいた」による各種生涯学習情報の発信

大分県立図書館運営の状況に関する評価

(委員名) _____

○ 図書館法

第7条の3 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

○ 評価の方法

各年度に定めた重点目標ごとに評価指標を設定し、年度終了後、それぞれの指標ごとの実績値について自己評価を行い、それに対して、図書館協議会委員が外部評価として意見を記載する。自己評価及び外部評価としての委員意見をあわせてHPにより公開する。

なお、自己評価はAからDの4段階とする。
 A:非常に成果があがっている。
 B:成果があがっている。
 C:それほど成果があがっていない。
 D:全く成果があがっていない。

○ 評価

(1) 多様な県民が利用できるサービスの提供

評価指標

・ 入館者数

令和4年度実績	280,405
令和3年度実績	316,289

自己評価	理由
C	前年度比88.7%と減少した。学習室等は同107.3%と増えたが、一般資料室が同82.5%と減った影響が大きい。貸出冊数は同92.6%の減少に留まり、登録者は同101.4%と増えているので、借りないが繰り返し入室していた人が減ったと考えられる。

委員意見

(2) 子どもの読書活動の推進

評価指標

・ 子ども室貸出冊数

令和4年度実績	164,063
令和3年度実績	177,687

自己評価	理由
B	1日当たり貸出冊数は令和3年度564冊から令和4年度533冊と微減している。15歳以下の新規登録者数は令和3年度より72人増加しているため、繰り返し利用する人が減ったと考えられる。

委員意見

(3) 資料収集・保存・提供の推進

評価指標

・ 全資料数(デジタル化資料を含む)

令和4年度実績	1,237,416
令和3年度実績	1,230,066

自己評価	理由
A	県立図書館としての蔵書構成を維持し、専門書を中心に幅広い資料収集に努めた。一般資料の専門書購入割合は50.1%と高水準を維持し、電子書籍の充実も図った。また、収蔵スペース確保のため、重複本等の不用除籍を促進し、蔵書の絞り込みを行った。

委員意見

(4) 市町村立図書館、学校図書館等支援

評価指標

・ 協力貸出冊数

令和4年度実績	19,647
令和3年度実績	20,637

自己評価	理由
B	貸出冊数の減少は、コロナ禍および県立学校のタブレット普及の影響が考えられる。DXが進む中、実利用者(学校等)数はコロナ禍前と比較して、減少していない。さらに、小学校の利用冊数は、増加傾向にあるため。

委員意見

(5) 県民の調査研究・課題解決支援

評価指標

・ レファレンス件数(簡易なものを除く)

令和4年度実績	7,505
令和3年度実績	7,303

自己評価	理由
B	受付件数は微増した。電話やメールでの受付件数、なかでも郷土に関するメールレファレンスが1.6倍(141件)と顕著に伸びた。子ども室での受付は来館での受付が回復傾向にある。ビジネス支援、行政支援に係る相談は減少したが、県内図書館等からの相談は増加した。

委員意見

(6) 市町村社会教育行政等との連携

評価指標

・ 地域人材等育成研修参加者数

令和4年度実績	2,008
令和3年度実績	1,530

自己評価	理由
A	集合での研修実施を原則とした。コロナの感染状況により参加者が少ない研修もあったが、「やさしい日本語」関連事業や、市町村に出向いての研修等で参加者が大きく増加した。

委員意見

「障がい者等の読書環境の整備について」答申による取組整理表

項目	第3章 取組の方向性(基本的な考え方)	取組事項	令和5年度に実施する事項	令和9年度までに実施する事項	長期的な検討を要する事項
1 アクセシブルな書籍等の充実	視覚障がい者等が利用しやすい書籍等の収集・提供や電子書籍サービスのコンテンツ充実を図る。	①アクセシブルな書籍の収集、提供 ・市場で流通する資料を中心に、ホームページやカタログ、他県の所蔵情報等から広く出版情報の把握に努め、収集につなげる ・非売品や市販で流通していない等、入手が困難な資料については、関係機関との連携を強化することで、自館に所蔵していない資料でも提供ができるよう努める。 ②電子書籍サービスの継続とコンテンツ充実 ・アクセシブルな書籍等の一つとして電子書籍があるが、音声読み上げ機能に対応しているコンテンツもあり、文字サイズの拡大など、高齢者や視覚障がい者等、読書に困難を感じる人が利用しやすい機能を持っている。 ・紙の本のようにページをめくる必要もなく、来館も不要なことから、肢体不自由者の読書環境の整備にも有効な資料となりうる。	・LLブックのミニコーナー作成(一般) ・布絵本の追加受入(子ども室・団体児童)※購入予算はR4年度 ・大活字本・朗読CDの購入(毎年約100冊) ・バリアフリー図書を集積する ・寄贈されたバリアフリー図書(マルチメディアデジター図書等)の受入、提供 ・利用者の求めに応じ、サビエ等を通じて他館所蔵資料を提供する(オンラインリクエスト) ・将来の利用が見込まれる、提供済みダウンロードデジター図書の所蔵受入を検討する ・布絵本の館内利用について再開を検討する。 ・電子書籍の追加購入(予算要中)	・アクセシブルな書籍の出版情報の把握に努め、積極的な資料収集を維持する。 ・子ども向けのアクセシブルな書籍等の情報収集に努める。 ・毎年新しい電子書籍を追加し、充実を図る(令和4年度末:1091冊→毎年100冊以上増加させる) ・電子書籍オーディオブックの導入を検討する。	・CDの市場が縮小しており、時代に合わせた媒体での資料収集の検討が必要 ・アクセシブルな書籍の増加により提供スペースの問題が発生している。バリアフリー資料を集めたコーナーを見直す必要がある(一般) ・電子書籍購入継続のための財源確保(通常資料費での予算確保を検討)
2 インターネット等を活用した図書館サービスの充実	視覚障がい者等がアクセシブルな電子書籍や端末機器を入手、利用しやすくするためには、詳細な情報提供が必要である。そのため、だれもが利用しやすいホームページの作成・充実を図るとともに、大分県点字図書館や市町村図書館と連携強化を図り、情報提供の充実を図る。	①インターネットを利用したサービスの充実、情報提供の強化 ・サビエ図書館及び国立国会図書館の視覚障がい者等用データの送信サービス等を利用した資料提供を行うとともに、その利用方法の相談を受け付ける。 ②障がいの特性に応じたサービスの充実、情報提供の強化 ・障がいの特性に応じたバリアフリーサービスの充実を図るとともに、団体貸出等の資料提供サービスを含め、視覚障がい者等の当事者団体や家族会等の支援団体、また小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に対する周知を徹底する。 ③アクセシブルな書籍や支援機器に関する情報提供の強化 ・音声デジター図書等のアクセシブルな書籍の展示会を実施するとともに、拡大読書器、ルーペ、音声デジター再生機等の読書支援機器の提供、音声デジター再生機等の端末機器の貸出などを行う。 ・障がい者向けサービスを紹介するリーフレットの作成・配布等、情報提供の充実を図る。 ④ホームページを活用した情報提供の強化 ・情報を誰もが利用しやすいように、ユーザビリティ、アクセシビリティに配慮したホームページの作成・充実を図る。	・サビエ図書館等のより使いやすいデータ提供方法(媒体、ソフト等)を検討する。 ・出版社や図書館等が配信している読み聞かせ等の情報を収集し、ホームページで情報提供する。 ・当事者団体や家族会等の支援団体へのサービス・提供可能資料の周知を行う。 ・障がいによっては電子書籍も有用であるので周知する。 ・県立壘学校でのおはなし会(パネルシアター・大型絵本等)及び当館でのバリアフリーおはなし会を実施する。 ・宅配貸出の育児書セットを新しくするとともに、サービスの周知をする。 ・学校に対し、OLIB関連のチラシ内にて、バリアフリー図書に関する情報を掲載して配布する。 ・10月発行の館報にて、学校及び関連団体へ関連情報を発信する。 ・県社会教育課事業「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」における「地域連携コンソーシアム会議」で、読書バリアフリーサービスについて周知。 ・点字図書館等との連携により、アクセシブルな書籍の展示会や操作体験会を実施する。 ・利用者の求めに応じ、音声デジター再生機等の支援機器の貸出を検討する。 ・サービスや資料を紹介したチラシ等を作成、配布する。		
3 だれもが利用しやすい施設・設備の充実	県立図書館は建築後、28年が経過し、経年による躯体の劣化や設備の老朽化による機能低下などが顕在化し、施設・設備の不具合への対応が求められている。また、利用者が使いづらい箇所があり、施設・設備の利便性の向上を図る必要がある。加えて、近年、多発している自然災害への備えにも配慮する必要がある。	①施設・設備のバリアフリー化の充実、老朽化への対応及び利用者の利便性向上 ・手すりの設置や、スロープの設置による図書館施設の段差解消、利用者に配慮したトイレ等の施設整備を進める。 ・不具合施設、設備について、計画的な保全工事を進める。 ・点字や音声案内、ピクトグラム、やさしい日本語を使用したわかりやすい利用案内を充実させる。 ・駐車場のスペースを広げるなど、利用者の利便性の向上を図る ・障がい等により来館が困難な人が必要とする移動支援等について、具体的な事例をもとに、関係する他の組織等と認識の共有化を図る。 ②多発する自然災害への対応 ・利用者が地下駐車場から使用できるエレベーターが1基しかなく、地震等で不具合が発生した場合、障がいのある方の館内での移動が難しくなるため、様々な場面を想定した対応策を検討する。 ・災害発生時に障がい者等が安全に避難できるよう避難訓練を実施するとともに、委託業者を含めた職員を対象とし、非常用階段避難車(キャリガン)や担架の使用法の習得等に係る研修を、引き続き実施する。	・表示方法を精査し、より分かり易い案内表示を進める。 ・段差や危険箇所(机の角等)の調査を行い、より安全安心な図書館となるよう細かい調整、修繕を行う。 ・災害時には階段を使用するしかすべがないため、布担架等の装備を増やし安全に階段を移動する訓練を継続する。 ・避難訓練は毎年継続して実施し、各職員、委託業者共が最良の行動をとれるよう準備している。非常用階段避難車の操作方法も、年に数回以上実施。	・地下駐車場のスペース拡大を図る。(令和4年度現在で駐車場利用状況のデータ収集を行っている。状況を確認した上で、何割のスペースを広げることが出来るかを検討した上で実施予定)	・多額の予算を要する施設改修、不具合設備の改修は計画的な保全工事によって実施。
4 障がい者サービスに係る人材育成・態勢整備	県内全ての公立図書館及び学校図書館において、障がい者サービスの充実に向け、円滑な利用を促進するためには、サービスを担う人材が不可欠である。そのため県立図書館が中心となり、必要な知識・技術を身につけるための研修等を実施し、人材育成を進める。また、人材育成においても大分県公立図書館等連絡協議会や大分県学校図書館協議会、大分県点字図書館との更なる連携強化と情報の共有を進める。	①人材育成の充実 ・「大分県図書館大会」や「大分県公立図書館等職員研修会」において、図書館長や司書、学校司書等関係職員を対象に、「障がい者サービス」や「読書に困難を抱えている方々への支援」に関する最新の動向や好事例を学ぶための研修や講演会を定期的実施する。 ②関係機関の人材育成の支援 ・大分県点字図書館において音声デジター図書などのアクセシブルな書籍の製作に携わっているボランティアに対して、読書の調査等へのレファレンスサービスによる支援を行う。	第2回「公立図書館等職員研修会」において、障がい者サービスに関連する講義を実施した。学校に対しては、同講座を動画配信して共有を図る。 ・レファレンスサービスにおいて、読み調べの援助を行う。	必要に応じて、最新の動向や好事例を学ぶための研修、同研修会にて実施し、学校に対しても動画配信にて共有を図る。	